



企業内起業家勃興の時代を目指して

インターワークス社長

吉井信隆氏

インターワークスの吉井と申します。私どもの会社はインキュベーション事業を行っており、おかげさまで、今年20周年目を迎えます。20年前の1995年は、阪神・淡路大震災が起こり、その後、株価が暴落をし、2カ月後には地下鉄サリン事件。さらに、自民・社民の連立政権である村山政権の下で、就職環境は氷河期といわれた時代でした。

その頃アメリカでは、シリコンバレーのベンチャーキャピタルのインキュベーターたちが、投資だけでなく投資をしたところに経営人材を紹介したり、コンサルティングをしたりして成長を支援し、企業に売却をしていくような生態系の構造がありました。

私は、このインキュベーション事業をぜひ日本でつくってみたいと思い、会社をスタートさせました。しかし、日本ではインキュベーションという言葉自体も浸透しておらず、そういった生態系の営みができてない環境下で、事業は苦戦を強いられました。

ここで、よく考えてみると、日本で最大級の雇用を創出している会社はトヨタ自動車グループであり、さらにファナックは富士通から生まれ、セブン銀行はセブン-イレブンから生まれているということに気づきました。すべてではありませんが、つまり企業内起業家が立ち上げた事業が日本の産業の根幹をつくっているということです。そこで、創業6年目ぐらいからは、企業内起業に軸足を定めて取り組んでいます。

直近で申し上げると「スマート介護」という事業が生まれ育ちました。いまのペースでいくと、将来的には100億円を突破する事業になるのではないかと予想しています。

ベンチャーは、いま、非常に活況を呈してきています。私どもは、2020年に向けベンチャーと企業内起業家の勃興の時代をつくり上げていければという思いで、取り組んでおります。